

歯周炎・糖尿病などの生活習慣病実態調査と住民参加型 予防プロジェクトの開発

研究代表者名 鈴木基之 昭和大学歯周病学講座
共同研究者名 魏 秀峰 吉林大学口腔医学院

要旨

近年、急速な中国社会の発展に伴い、齲蝕と歯周疾患が増加していると報告されており、また急速な都市化により生活習慣病(糖尿病)の増加も報告されている。しかし中国における歯科医療事情は、単位人口あたりの歯科医師数で日本の約 30 分の 1 にあたり、このような状況を放置することは、中国国民にとって、極めて不幸な状況であり、今後の中国国民の健康を著しく阻害するばかりでなく、医療経済学的にも多大な損失となる事は明白である。

このような観点から、中国人歯科医師に対する生活習慣病としての歯周病治療の普及活動を行うことと、効果的な予防プログラム立案・施行することは極めて重要である。

本研究では中国人に対し歯周病と生活習慣病(特に糖尿病)の関係について指導を行うための予防指導者として中国人歯科医師を育成し、これら予防指導者が自強小学校父兄を中心とした住民に対し歯周病と生活習慣病(特に糖尿病)の関係について、歯科疾患予防法について指導し、またあわせて自強小学校児童に対し歯科検診および予防指導を行った。その結果良好な結果が得られた。

Key Words 歯科疾患罹患状況調査指導、歯周病予防教育、生活習慣病

緒言

日本人による中国における歯科疾患実態調査は、1990 年代より多数行われており、齲蝕についてはその低罹患率が、報告されている。しかし、近年の齲蝕罹患状況比較報告では大都市郡における齲蝕の増加が報告され、今後、都市化の進行に伴い、急増すると考察されている。

一方歯科 2 大疾患のうちの歯周病についての実態調査報告は中国衛生部による第二次全国口腔健康流行病学抽样調査(全国歯科疾患罹患状況抽出調査 1995 - 1998 施行)と、我々が 1993 年より 5 年間中国河北省承德市にて行った歯周炎自然史調査と歯周炎予防プログラム(日中医学協会 1996 年度調査・共同研究助成)の実施のみである。これらの結果より 10 歳代の小児に歯肉炎および初期歯周炎が認められ 20 歳代後半より歯周炎が発生し、40 歳代では 90%以上の罹患率であった。

歯周病は抜歯原因の第 1 位であり、この歯周病治療の普及と歯周病予防対策を早期に行う必要がある。

また 2002 年 11 月北京市にて開催された「日中医学大会 2002」において基礎歯学分野での中

国歯科界の目覚ましい発展を目の当たりにすることができたが、臨床歯学分野や予防歯学分野(特に歯周病学領域)での立ち遅れが顕著であった。

特に中国における歯科医療事情は、単位人口あたりの歯科医師数で日本の約 30 分の 1 にあたり、このような状況を放置することは、中国国民にとって、極めて不幸な状況であり、今後の中国国民の健康を著しく阻害するばかりでなく、医療経済学的にも多大な損失となる事は明白である。

また中国では急速に都市化が進行し、都市型食生活への変容が認められ、生活習慣病の発症が増加していると報告されている。これら生活習慣病(特に糖尿病)と歯周炎の関連については、深い因果関係が報告されており、良好な歯周組織を持つものでは全身疾患の罹患率が低いとの報告がなされており、歯周病予防を通じ生活習慣病を中心とした全身疾患の予防の可能性が示唆されている。我々は、このような観点から、中国人歯科医師に対する歯周病予防の普及活動を行い、これら歯科医師を中心として地域住民に予防活動を行う住民参加型予防の実施と、歯科疾患罹患状況調査を行った。

対象と方法：

対象は、吉林大学口腔医学院に在籍する歯科医師および口腔医学院に在学中の歯科学生とした。

方法は、以下に記す歯周病予防の普及教育と歯科疾患罹患状況調査についての指導教育を講義および実習により行った。これらの育成教育を受けた歯科医師を予防指導者とした。

結果

1. 歯周病予防指導者育成教育について

歯周病の原因とその治療法、歯周病と生活習慣病の関係、生活習慣病の全身に与える問題点、歯周治療の治療効果と全身への影響、歯周病予防の必要性と具体的な予防法について法についてスライド・ビデオなどの視聴覚器材を用いた教育を行った。(1 回 3 時間 2 回、計 6 時間、2007 年 6 月実施)

吉林大学口腔医学院における参加歯科医師と活動状況：歯科医師 20 名、歯科学生 30 名計 50 名が参加し、活発な質疑応答がなされ、十分な開発教育がなされた。

2. 歯周病罹患状況調査と齲蝕調査方法の指導教育について(2007 年 11 月実施)

① 歯周組織調査

歯肉炎指数 (Löe & Silness) 歯周ポケット深さ 歯肉出血指数
アタッチメントレベル 歯周炎関連細菌検査
PCR 法を用いて、対象者プラーク中の細菌検査を行う。
以上について、代表歯、6 歯の検診を行う。

② 齲蝕および現在歯調査

WHO の歯科疾患調査基準に従い、齲蝕罹患状況と現在歯数の調査法。
上記診査について吉林大学口腔医院来院患者の協力を得て実地実習を行い、基本的診査について満足のいく結果が得られた。

3. 歯科疾患罹患状況調査(2007 年 11 月実施)

自強小学校の児童を対象としてう蝕罹患状況調査を行った。対象児童は 6 歳から 12 歳の 320 名とした。

う蝕罹患状況派は 2001 年に我々が実施した結果と比べ 95.8%と 5 ポイントの増加が認めら

れた。また一人平均う蝕経験歯数は乳歯・永久歯とも増加が認められ日本と比べ極めて悪い状況であった（表 1、2）。

表 1. 一人平均う蝕経験歯数 乳歯

年齢(歳)	2001 年	2007 年	日本
6	6.1	7.1	3.7
7	5.1	7.0	4.2
8	6.8	7.2	3.0
9	3.3	5.1	3.6
10	2.3	3.1	2.1
11	0.7	1.3	1.0
12	0.3	1.4	0.3

表 2. 一人平均う蝕経験歯数 永久歯

年齢(歳)	2001 年	2007 年	日本
6	0.1	0.3	0.2
7	0.7	0.8	0.2
8	1.0	1.4	0.5
9	1.3	1.7	0.9
10	2.1	2.7	0.9
11	2.2	3.3	1.6
12	3.7	2.5	1.7

4. 歯周病予防指導者による住民への普及活動について(2008年3月実施)

住民への予防普及活動については当初、職域または居住地を中心として行う予定であったが、勤務時間、勤務状況などの問題で一括しての指導が困難であったため、対象住民を自強小学校通学児童の父兄(120名)とした。

住民への予防普及活動は吉林大学口腔医学院の歯周病予防指導者より自強小学校講堂にてスライド等の視聴覚器材を用いて、先に行った育成教育の内容を中心に約30分の教育講演を行った。参加者は全児童数の約三分の一であり今後も中国人歯周病予防指導者により継続教育を決定した。

内容は歯周病と生活習慣病に関するものだけでなく、家庭における児童への予防健康教育を行うことを含むことについて協議決定した。

5. 歯周病罹患状況調査(2008年3月実施)

2007年11月に実施した歯周病罹患状況調査について吉林大学口腔医学院口腔医院来院患者の調査を行い中国人歯科医師の健診能力判定を行い良好と認められたため、今後中国人歯科医師により継続調査を行い対象者数を増加することを協議決定。

考察

中国国内での歯科疾患罹患状況ならびに生活習慣病の発症は都市型生活様式の進行とともに増加が認められ極めて悪い状況である。一方、これらの疾病に対する予防活動は行われていない現状である。

本研究では歯周病予防指導者を育成し、これら歯周病予防指導者による住民へ歯周病・生活習慣病予防普及活動を行い、併せて歯科疾患罹患状況調査を行ったが、児童において明らかに歯科疾患罹患状況が悪化していた。これらのことより中国における歯科疾患罹患状況は全体としても悪化していることが推測される。このことより本研究のような予防活動の重要性が認識された。

住民への普及活動については当初、職域・居住地の住民を対象に歯周病予防指導者から予防指導を行うこととしたが、対象者が現状の勤務状況などにより参加が困難であったため変更を余儀なくされた。この点については住民の意識の中に現状では健康より経済が優先されていると推測された。

対象住民の変更にあたり小学生の父兄に変更したことは学校行事の合間に時間を作ること

により参加可能になると考えられた点と、児童に予防活動を行っても父兄が予防について無知・無関心では児童の予防教育上好ましくないとの観点からである。この点については今後親子の両者に対しての予防した場合の効果について詳細な検討が必要である。

また今後、これらの教育活動のアップデートを計るための継続教育の必要性がある。

参考文献

1. 中国衛生部：第2次全国口腔健康流行病学抽調査. 1998. 人民衛生出版社. 北京
2. 中田 稔：中国人小児の歯科疾患と歯科的特質に関する実態調査. 1992. 文部省科学研究費報告書

作成日 2008 年 3 月 14 日